

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101006		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌山鼻グループホーム (太陽ユニット)		
所在地	札幌市中央区南14条西18丁目5-1		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0190101006-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、通所介護の他にサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も併設した複合の事業所となりました。移転後は協力病院が隣となり、医療支援の迅速な対応ができております。事業所の設備に関してはフロアに限らず全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせる環境を整備しました。また当初より「看取り」までの支援を考え、重度になっても、入浴ができるようリフト浴が設置し、各居室にも電動ベッドを設備しました。

サービスとしてはコロナ禍で外出ができない状況となりましたが、室内でも楽しんでいただけるよう、誕生会などのイベントで美味しい出前を頼んだりして楽しんでおります。最近、コロナ感染者が少なくなっておりますので天気の良い日は近隣の公園等に散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。

ご家族との面会については現在、相談室を活用し予約制で実施しております。ご家族と面会をすることでご入居者様は喜んでおられますので感染状況をみながら継続して実施していきたいと思っております。

共用型認知症対応型通所介護は現在、コロナ禍で休止しておりますが、地域で困っている認知症の方の支援や将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限にできるような環境を整備できるよう、再開後はしていきたいと思っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌山鼻グループホーム」は、路面電車「西線14条」駅から徒歩10分ほどの住宅地に立地している。近くには公園やドラッグストア、商業施設もあり生活の利便性が高い事業所である。共用空間や居室は清潔感があり、冷暖房設備も完備されて過ごしやすい環境になっている。浴室はリフト浴を備えており、ほとんどの利用者が湯船に浸かって入浴を楽しむことができる。運営推進会議は、家族の質問や意見を書面会議の議事録に反映させるとともに、外部評価結果や身体拘束・虐待防止委員会の議事録を添付するなど工夫しながら開催している。ケアマネジメントでは、利用者の状況を具体的に伝えて家族の意向を聞き取り、目標達成に向けて検討してその人らしい生活を支援している。身体拘束・虐待防止委員会は全職員で2か月ごとに開催し、具体的な事例に沿って適切な対応を話し合っている。プライバシーや接遇に関する研修も2か月ごとに実施し、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に取り組んでいる。以前は年2回の発行にとどまっていた広報誌「ふれあい便り」を2か月ごとに作成し、介護計画の更新時にも個別の手紙や写真を家族に送っている。近隣を散歩したり、ボランティアの受け入れや小学校とDVDや手紙で交流するなど、感染症流行の中でも利用者が楽しめるように工夫している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在コロナ禍で地域の関わりはできませんが、入居者一人ひとりが、健やかに生活を送れるよう介護計画書を作成し支援している。今後、現在休止しているが、地域の方への認知症支援として認知症対応型通所介護事業の再開を考えています。理念は事業所内に掲示している。	理念に掲げる「ともに・楽しく・すやかに」の文言に、地域や家族の方々と一緒にという意味が込められている。入職時オリエンテーションで伝え、全体会議で確認している。理念は事務所に掲示しているが、玄関やユニット内にも掲示して、常に確認できるようにしたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は少しずつではありますが、外出や散歩が増えてきており、公園に行く地域の方々から話しかけられやり、感染防止に留意しボランティアの方を読んで歌を聴いたりしています。	歌のボランティアが来訪したり、小学校の子供たちから劇のDVDと手紙が届けられ、利用者と一緒に千羽鶴とメッセージカードをお返ししている。感染症収束後は、夏祭りや盆踊りなどの町内会行事への参加を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は入居者様と町内の催し物に参加したり、認知症サポーター講座など開催していた。現在休止しているが、認知症対応型通所介護事業で地域の認知症の方の支援もしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在、集まっでの開催はしていません。文章を活用し、事業所の状況報告をしております。	会議は書面開催しているが、家族の意見や質問なども議事録に記載している。外部評価結果や身体拘束禁止・虐待防止委員会の議事録も送付している。今後は地域役員にも議事録を送付して意見などをもらい、書面会議に反映させる意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは運営について確認を行うなどの連携を図ったり、空室状況を報告している。地域包括支援センターへは運営推進会議として事業所の様子を報告しております。	区役所におむつサービスや介護保険に関して確認したり、職員研修の情報をもらっている。現在は困難事例などで相談することはないが、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束についての話し合いを行っている。また研修も年2回実施し、スピーチロックや普段のケアの中での事例を検討したりと改善できる情報を共有している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した指針を作成し、勉強会などで確認している。全職員で2か月ごとに身体拘束禁止委員会を開催し、具体的な事例に沿って適切な対応について話し合っている。利用者が外出しようとした時は、職員も一緒に出かけて気分転換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より身体拘束委員会に合わせ虐待に対しての委員会も開催しております。アンガーマネジメント研修などのセルフケア研修も行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。高額でもあるので進まない現状もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。後日不明な点が生じた場合は都度ご説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関してはケアプランの配送時や電話などで要望等を伺い、反映させております。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。また事業所以外にも本社に窓口を設け相談できる機関を設置しています。	来訪時や電話で様子を伝えながら意見や要望を聞き取り、タブレット端末に記録している。記録は3か月ごとに印刷して書面でも確認できるようにしている。2か月ごとに「ふれあい便り」を発行し、介護計画の更新時に写真と個別の手紙も送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より現場に入ることにより、不満点などを職員から聞き取ったり、定期的に職員と面談等を行い、全体会議においても意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるように配慮しています。	管理者は、日々の業務の中で職員と話をしながら意見や提案を聞き取っている。職員の提案で、日勤と夜勤の業務内容を見直したり、各ユニットのリフト浴日を決めている。職員は、何でも話しやすい環境であると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃より出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情などに注意している。ストレスマネジメントの面で職員が管理者以外にも相談できる窓口を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議棟で研修の実施をしたり、将来的なことを考え資格取得支援として研修への参加の補助や法人で行う模試などに参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所などとの交流はできていないが、同施設のデイサービスやサ高住、グループホームなどは交流の機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、今までの生活歴等を確認し、今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。入居後は細目にご連絡等を行い、ホームでの様子をお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め、おむつサービスなど市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。また必要なことはご家族様と相談し、ともに支援できる体制づくりを行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ病院にご家族の支援を受けながら受診をしたり、なかなか来られない家族様等には電話をしたりして状況をお伝えしております。	家族と一緒に友人が訪ねて来たり、自宅に届いた手紙やハガキ、年賀状などを家族が届けてくれることもある。家族と一緒に自宅に帰ったり、外食をする利用者もいる。職員と一緒に近隣の公園で花見や紅葉見学を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。また関係が崩れそうな様子が観られそうな際は、席を変えるなどして工夫しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。転居された場合にも転居先へ情報を伝達し、必要であればご連絡いただく形をとっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めています。	会話や表情、仕草や発語などから思いや意向を把握している。利用開始時に「生活背景調査票」を作成している利用者もいるが、書類の更新は行っていない。	趣味や嗜好、暮らしの習慣などを書面でも確認できるように全員の「生活背景調査票」を作成し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について入居後も、積極的にコミュニケーションをとり、サービス向上につなげるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し、個別の支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしています。	家族の意向を事前に聞き取り、利用者担当職員の評価を基に全職員で話し合い、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は介護計画に沿ってタブレット端末に記録し、評価や見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ対応しています。福祉用具なども事業所の費用負担でレンタルをしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。ボランティアや地域の方との交流はコロナ禍でできていないが近隣小学校の方とは直接接しない形での交流をしている。また必要な方は訪問マッサージを導入しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月1回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行しています。	利用開始時に家族の意向を確認し、受診先を決めている。現在は、全員が協力医療機関の訪問診療を受けている。家族と受診する時は状況に応じてメモ書きで健康状態を伝えている。受診記録はタブレット端末に入力している。	

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。夜間帯もオンコール体制をとり、必要に応じた相談をうけられる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、入院期間中も定期的に面会に行き状況の把握に努めています。また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針については入居時に確認を行い対応しております。終末期にはご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。	利用開始時に重度化の指針と看取り指針に沿って事業所の方針を説明し、看取りに対する「事前意思確認書」を作成している。健康状態の変化に応じて関係者と話し合い、その都度家族の意向を確認している。年1回看取り研修を実施し、今年度も4名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。非常災害の訓練はしているが急変時の訓練も会議の中で手順や動きなどを定期的に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を実施している。土砂や水害などの災害は少ない地域であるため、現状1階に浸水する想定訓練は実施しましたが2階までは実施していません。地盤調査や災害マニュアルは研修を通して周知していますが十分に周知できているとはいえません。	年2回、昼夜の火災や地震を想定した避難訓練を建物内の事業所と合同で実施している。通常時は消防署と地域住民の協力を得て訓練を実施しているが、今年度は自主訓練となっている。職員の救命講習は、感染症の収束状況を見ながら計画的に進めたいと考えている。	地震などを想定したケア別の個別対応について話し合い、記録に沿って定期的に再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設けています。	接遇に関する研修を2か月ごとに開催している。記録類はタブレット端末に記録し、書類は事務所内の棚に保管している。事例検討や職員間の話し合いが日々のケアに活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を確認し、起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。定期的に理美容を利用し、身だしなみを整えています		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。外食はできないため施設内で行事食(誕生日や正月、花見など)の行事を企画し、特別な食事も定期的に楽しんでいます。	法人作成の献立となっているが、パン食や麺類の頻度を増やすなど利用者の希望を反映した献立となっている。朝食の下拵えなどで利用者も調理に参加している。誕生日には寿司やうなぎなどの出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に従い、食事の提供を実施しております。食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には歯ブラシ以外にも口腔スポンジを使用し、口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。体調などに応じベッド上での対応も行っています。	タブレット端末と書面で全員の排泄状況を記録している。自立している利用者もいる。日中は可能な限りトイレを使用し、排泄間隔や仕草などを見て一人ひとりに合わせた適切な声かけや誘導を行い失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談し、下剤などを使用し調整を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全入居者様が週2回の入浴を楽しんでいる。拒否が強い方は原因を確認しケアの統一を図ったり、体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。	毎日入浴が可能で、午前の時間帯を中心に一人当たり週2回程度の入浴を行っている。リフト浴も完備されているため、全員が浴槽に浸かることができている。お湯を一人ひとり交換して入浴剤を入れたり、好みの湯加減で職員との会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、昼間の活動の支援をし、精神面での安定を図るなどし、夜間安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には入居者様が使用する薬の目的や副作用等を周知し、入居者様一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援をしている。薬局と個人で契約し居宅療養管理指導を受けて対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出などは近隣の公園の散歩や事業所周りの散歩に限られている。終息に向かっていけば行事等の企画を検討していきます。	事業所周辺や近隣の公園への散歩を行っている。日用品の買い物でドラッグストアなどにも出かけている。感染症流行前は月に1度の外出行事で円山動物園やテレビ塔、雪まつりなどに出かけていたため、今後の状況を見ながら再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。希望があれば手紙や年賀状が出せる支援もしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。	対面式キッチンに面している食堂と居間は広々として明るく、整頓されている。壁面には、利用者と制作した桜の飾りなど季節の装飾が施されている。カラオケやオセロ、麻雀などのゲーム類も多く準備しており、他の利用者や職員と関わりながらゆったりと過ごすことのできる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	太陽については共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。概ね座席を決め、慣れた場所で過ごせる様な環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。	居室にはエアコンとクローゼット、介護ベッドが備え付けられている。仏壇や鏡台などの馴染みの物やテレビ、冷蔵庫など思い思いの物を持ち込んでいる。壁面には時計やカレンダー、写真などが飾られており、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101006		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌山鼻グループホーム (ひまわりユニット)		
所在地	札幌市中央区南14条西18丁目5-1		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0190101006-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、通所介護の他にサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も併設した複合の事業所となりました。移転後は協力病院が隣となり、医療支援の迅速な対応ができております。事業所の設備に関してはフロアに限りならず全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせる環境を整備しました。また当初より「看取り」までの支援を考え、重度になっても、入浴ができるようリフト浴が設置し、各居室にも電動ベッドを設備しました。
サービスとしてはコロナ禍で外出ができない状況となりましたが、室内でも楽しんでいただけるよう、誕生会などのイベントで美味しい出前を頼んだりして楽しんでおります。最近、コロナ感染者が少なくなっておりますので天気の良い日は近隣の公園等に散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。
ご家族との面会については現在、相談室を活用し予約制で実施しております。ご家族と面会をすることでご入居者様は喜んでおられますので感染状況をみながら継続して実施していきたいと思っております。
共用型認知症対応型通所介護は現在、コロナ禍で休止しておりますが、地域で困っている認知症の方の支援や将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限にできるような環境を整備できるよう、再開後はしていきたいと思っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在コロナ禍で地域の関わりはできませんが、入居者一人ひとりが、健やかに生活を送れるよう介護計画書を作成し支援している。今後、現在休止しているが、地域の方への認知症支援として認知症対応型通所介護事業の再開を考えています。理念は事業所内に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は少しずつではありますが、外出や散歩が増えてきており、公園に行く地域の方々と話しかけられやり、感染防止に留意しボランティアの方を読んで歌を聴いたりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は入居者様と町内の催し物に参加したり、認知症サポータ講座など開催していた。現在休止しているが、認知症対応型通所介護事業で地域の認知症の方の支援もしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在、集まってる開催はしていません。文章を活用し、事業所の状況報告をしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村へは運営について確認を行うなどの連携を図ったり、空室状況を報告している。地域包括支援センターへは運営推進会議として事業所の様子を報告しております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束についての話し合いを行っている。また研修も年2回実施し、スピーチロックや普段のケアの中での事例を検討したりと改善できる情報を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より身体拘束委員会に合わせ虐待に対しての委員会も開催しております。アンガーマネジメント研修などのセルフケア研修も行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。高額でもあるので進まない現状もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。後日不明な点が生じた場合は都度ご説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関してはケアプランの配送時や電話などで要望等を伺い、反映させております。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。また事業所以外にも本社に窓口を設け相談できる機関を設置しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より現場に入ることにより、不満点などを職員から聞き取ったり、定期的に職員と面談等を行い、全体会議においても意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるよう配慮しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃より出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情などに注意している。ストレスマネジメントの面で職員が管理者以外にも相談できる窓口を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議棟で研修の実施をしたり、将来的なことを考え資格取得支援として研修への参加の補助や法人で行う模試などに参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所などとの交流はできていないが、同施設のデイサービスやサ高住、グループホームなどは交流の機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、今までの生活歴等を確認し、今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。入居後は細目にご連絡等を行い、ホームでの様子をお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め、おむつサービスなど市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。また必要なことはご家族様と相談し、ともに支援できる体制づくりを行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ病院にご家族の支援を受けながら受診をしたり、なかなか来られない家族様等には電話をしたりして状況をお伝えしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。また関係が崩れそうな様子が観られそうな際は、席を変えるなどして工夫をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。転居された場合にも転居先へ情報を伝達し、必要であればご連絡いただく形をとっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について入居後も、積極的にコミュニケーションをとり、サービス向上につなげるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し、個別の支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し申し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ対応しています。福祉用具なども事業所の費用負担でレンタルをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。ボランティアや地域の方との交流はコロナ禍でできないが近隣小学校の方とは直接接しない形での交流をしている。また必要な方は訪問マッサージを導入しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月1回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行しています。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。夜間帯もオンコール体制をとり、必要に応じた相談をうけられる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、入院期間中も定期的に面会に行き状況の把握に努めています。また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針については入居時に確認を行い対応しております。終末期にはご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。非常災害の訓練はしているが急変時の訓練も会議の中で手順や動きなどを定期的に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を実施している。土砂や水害などの災害は少ない地域であるため、現状1階に浸水する想定訓練は実施しましたが2階までは実施していません。地盤調査や災害マニュアルは研修を通して周知していますが十分に周知できているとはいえません。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を確認し、起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。定期的に理美容を利用し、身だしなみを整えています		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。外食はできないため施設内で行事食(誕生会や正月、花見など)の行事を企画し、特別な食事も定期的に楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に従い、食事の提供を実施しております。食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には歯ブラシ以外にも口腔スポンジを使用し、口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。体調などに応じベッド上での対応も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談し、下剤などを使用し調整を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全入居者様が週2回の入浴を楽しんでいる。拒否が強い方は原因を確認しケアの統一を図ったり、体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、昼間の活動の支援をし、精神面での安定を図るなどし、夜間安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には入居者様が使用する薬の目的や副作用等を周知し、入居者様一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援をしている。薬局と個人で契約し居宅療養管理指導を受けて対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出などは近隣の公園の散歩や事業所周りの散歩に限られている。終息に向かっていけば行事等の企画を検討していきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。希望があれば手紙や年賀状が送れるよう支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	太陽については共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。概ね座席を決め、慣れた場所で過ごせる様な環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌山鼻グループホーム

作成日：令和 5年 3月 25日

市町村受理日：令和 5年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年二回の避難訓練の実施、昼夜想定で行っているが、入浴時・トイレ介助時などに起こった場合の訓練、流れの確認ができていないため、個別ケア時での対応方法を再度確認する必要がある。	いかなる状況下においてもスムーズな避難誘導が行えるよう、想定し得る内容について話し合い、動きを確認し、マニュアルを作成する。	入浴時のケースに関しては介護度・介助方法ごとに避難の方法が変わってくるため、各々個別ケア時の誘導方法を話し合い、記録にまとめ周知する。 また、次回避難訓練時に入浴介助時想定での訓練を行い、スムーズに避難ができるか確認の場にする。	1年
2	23	入居当初に生活背景調査票の項目を記載して頂いているが、その用紙の更新がない。	定期的に生活歴や、利用者様の趣味嗜好の変更などを更新し、新しい職員やご家族様への情報共有への利用活用ができるようになる。	アセスメントを行う際に、計画作成・利用者担当者などが生活歴の部分を更新し、記録する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。